

第1回体の動きを高める運動領域部会記録

参加者 河野 古川 岡田 畠中 関川 山本 藤原 横山 藤井 坪根 小木曾 高橋 鈴木 大川
常任理事 黒澤校長 佐々木校長

1 常任理事の先生より

(1) 練馬区立大泉小学校 佐々木校長より「体の動きを高める運動について」

① 学習指導要領の変遷について

・明治維新：第1の教育改革。昭和22年：第2の教育改革。平成30年：新たな教育改革

② 主体的、対話的で深い学びについて

- ・主体的な学び：学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結び付けていく
- ・対話的な学び：多様な人との対話や先人の考え方（書物等）で考えを広げる
- ・深い学び：各教科で習得した知識や考えを活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考え方を形成し表したり、思いを基に想像・創造したりする。

③ 体育における対話的な学習活動

- ・作戦図
- ・写真、図、イラスト
- ・学習カード
- ・オノマトペ（擬音語）
- ・言葉掛け

④ 学習の質を向上させる

・これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要。

⑤ 体育はフリの学習と言われている

- ・体育を行うと何が身に付くのかを明確にし、それを実現する体育の授業を行わなければ信頼されない
- ・「何が身に付いて、自分が向上したのか」、「達成感をもって本当の楽しさを味わえたのか」、「生涯にわたって運動を継続する力が身に付いたのか」

⑥ 子供の体力の現状

・「走り方」「投げ方」「跳び方」→子供は、体の使い方を知らないのではないか？

⑦ 体づくり運動の変遷

⑧ 子供の体力の現状

・運動の基礎となる類似の運動遊び（運動のアナログ）を身に付けさせなければいけない



- ⑨ 動きの分類（身に付けておきたい36の基本動作）
- ・体育の学習の中で保証していかなければいけない

⑩ 運動の適時性

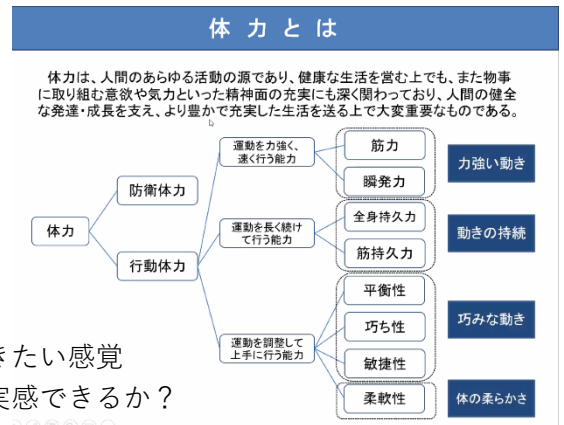
- ・ゴールデンエイジ「即座習得」の時期を意識した授業づくり
- ・小学校：体の柔らかさ、巧みな動き
- ・中学校：運動を持続する能力
- ・高等学校：力強い動きを高める動き・スピード

⑪ 体力とは

- ・一人一人に身に付けるものは異なる

⑫ 体力のとらえ方

- ・動きの高まり＝体力の高まり
- ・質的な高まり・・・今の子供たちに身に付けていきたい感覚
- ・量的な高まり・・・本当に1単位時間で高まりが実感できるか？



⑬ 動きの条件の変化

- ・人数、回数、高さ、姿勢、部位、空間、速さ、距離、方向、量、用具

⑭ 指導のポイントと授業づくり

- ・必要充足運動であり、トレーニング的になりがちである。
「トレーニングでなくラーニングである」

⑮ 「体づくり運動」の運動内容

- ・どの運動も、体ほぐし、多様な動きをつくる運動（遊び）、体の動きを高める運動で取り上げることができるが「ねらい」「めあて」が異なる。

⑯ 学習課題（めあて）のめあせ方 深い学びを実現させるためには、具体的なめあてを立てられるように育てていく

- ・目標を決める（目標の設定）
- ・解決する課題を選ぶ（課題の選択）
- ・活動の仕方を決定する（活動の決定）

⑰ よい体育の授業とは

- ・魅力ある教材を準備すること
- ・やさしいかわりをする
- ・かしこい学び方をさせること
- ・明確なめあてをもたせること
- ・学習従事の時間が長いこと

⑱ 言葉掛けのポイント 思考力をたかめるきっかけになる

- ・賞賛・励まし
- ・ポイントを身に付ける言葉掛け
- ・ポイントを発見させる言葉掛け
- ・自分の動き、友達の動きを見つめさせる（相互評価、自己評価につながる）言葉掛け

「どうしてできたの?」「この前と何が違うの?」「〇〇さんは何がよかったと思う?」

(2) 江戸川区立新堀小学校 黒澤校長より

- ・温故知新の考え方も大切にしていきたい。
- ・「指導の個別化」と「学習の個性化」のとらえ方を見直していきたい。

2 河野部長より

(1) 組織について

(2) 部会運営方針

- ① 一人一人が部会の中心
- ② 継続と変革
- ③ 専門性の追究と一般化
専門性の追究と一般化を2本の柱として進める
- ④ 部会を行う時間 18時30分～20時00分
- ⑤ できる限り実技研修を重ね、運動を開発していく
- ⑥ 実証授業 実証授業①「岡田先生」江戸川区立上小岩第二小学校
実証授業②「畠中先生」江東区立豊洲西小学校

(3) 研究の内容について

- ① 子供一人一人が課題を見いだすための手立ての工夫
- ② 手立て
・教師の働き掛けの明確化
→「教師が教えること」「教師が支援・手立てを講じること」「子供が学ぶこと」
- ③ 第5学年の基となる学習過程の作成
・昨年度の部内授業の成果と課題を生かして作成
・3時間のまとまりで学習過程を設定していく予定
- ④ 新たな運動例の開発
Ex 子供の思考が働く運動例、体の動きを高める新しい運動例
- ⑤ 個別最適な学びと協働的な学びをつなげる手立て
- ⑥ 2学年を見通した学習過程
Ex 第5学年は「運動を選択」、第6学年は「運動の計画を作る」

3 古川副部長より「指導の個別化」と「学習の個性化」について

(1) 指導の個別化

- ・指導方法・教材、学習時間等の柔軟な提供・設定

(2) 学習の個性化

- ・子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供

(3) 働き掛けの明確化が重要

- ・体の動きを高める運動では教えるべき内容が多すぎた

→教師がどのように支援・手立てを講じていくかが大切

(4) 学びのロードマップ

- ・異なる目標に向けて、どのような方向性で学習を進めていくか？
→自らの問いから学習課題を見だし、設定し、解決の糸口となるロードマップを作成。
学習の見通し、自分の現状を把握する。
毎時間の振り返りを活用し、自分のゴールイメージへの道筋を探る。
運動プロモーションムービーを提示する。
一定の目標の達成に向けて、一人一人が異なる方法で学習を進めていく。

(5) 古川先生の資料を通して

- ・一人一人が学習計画をどのように立てていけるようにするか？
→運動は同じだが、一人一人のめあては異なる状況が学習の個性化なのではないか？
- ・昨年度の部内授業で「学習の個性化」については手ごたえを感じた。今年度は、「指導の個別化」についてより具体的に研究していく必要がある。
- ・年間を通して体育科で学び方を身に付ける部分と体の動きを高める運動の特性を生かした学び方との両輪で学習の質を高めていく必要がある。
- ・働きかけの具体化が必要である。
- ・学びのロードマップが部会の売りになってくると考える。
- ・教師の働き掛けの表をより具体的にしていける必要がある。
- ・問いを大事にしたい。「問いから課題を見出す」「全体で問いを共有していきたい」
- ・一つの単元では難しいところもあるが、いくつかの単元を通して身に付けていくことができる学び方もある。

4 その他 次回に向けて

- ・「体の動きを高める運動って何？」というところからスタートする先生もいる中で、どういったら部会の考えを広げていけるか考えていくことも大切である。